

学会連合版 MMT の Q&A

- Q-1. 立位保持ができない対象者の場合、足関節底屈の筋力検査をどのように実施すればよいでしょうか。
- A-1. 学会連合版 MMT の 6 段階検査では立位以外での検査法を規定していませんので、HHD を用いた筋力測定(p185)を提案します。
- Q-2. 段階 5 の「強い抵抗」と段階 4 の「中等度抵抗」の定義を教えてください
- A-2. 徒手抵抗の強さについて明確な定義付けはありません。対象となる関節運動によっても「強い抵抗」はかわります。
対象者のとる一定の構えを崩そうと検者が徒手抵抗を負荷しても、その相当な力に負けず保持できれば「強い抵抗」に負けていないと判断し、強い抵抗に向かって漸増していく過程で構えが崩れるようであれば「中等度の抵抗」に抗することができるかと判断してよいと考えます。
- Q-3. 股関節伸展の段階 3～5 の検査では膝関節に負担がかかると考えられます。膝関節に機能障害がある場合、どのように検査すればよいでしょうか。
- A-3. 膝関節に負担がかからないように、大腿遠位部で固定・操作してください。あるいは、簡易膝装具等でしっかり固定して検査することもよいでしょう。
- Q-4. 肩甲帯の検査で、前腕・上腕を介して肩甲帯の運動に徒手抵抗をかける検査がありますが、肩関節に不安定性がある場合はどのように実施すればよいでしょうか。
- A-4. 検者は自由上肢の重さだけ支えたうえで、肩甲帯下制であれば腋窩に、肩甲帯屈曲であれば鎖骨遠位部～肩峰に抵抗をかける方法でも段階 4 と 5 を検査できます。
- Q-5. 検者の立ち位置は図のとおりでなければならぬでしょうか。
- A-5. 対象者と検者の体格差や検者の利き手などを考慮して、検者が最も検査しやすい立ち位置を選択してください。
- Q-6. 段階 1 と 0 の検査は段階 2 の検査姿勢で実施するのですか。
- A-6. 段階 2 の検査姿勢で行うことが優先されますが、対象者が筋収縮を行いやすかつ検者がそれを触知しやすい姿勢を選択してよいと考えます。
- Q-7. Daniels の MMT との類似点、相違点を教えてください。
- A-7. ・対象者の検査体位が同じでも、構えや運動方向、運動範囲が異なったり、検者の抵

抗部位が異なったりしますので、Daniels と学会連合版の両方でまったく同じ方法で検査できる運動はありません。

- ・その中でも、2種の MMT を同じ体位、かつ、構え・抵抗・運動範囲の若干の配慮で検査できる運動として、体幹屈曲、肩関節屈曲・外転・水平内転、肘関節屈曲、前腕回内・回外、手関節屈曲・伸展、股関節・外転・内転、足関節背屈・回内・回外、が挙げられます。股関節屈曲と膝関節伸展も非常に近い検査方法になっています。
- ・参考までに、2種の MMT の検査体位のみ運動別に一覧にしたものを別表で示します(※ 手指と足趾は掲載していません)。同じ体位でも構え・抵抗・運動範囲等が異なりますので、その点は成書を参照してください。

検査法 段階	Daniels(10th ed.)					学会連合版				
	5	4	3	2	1・0	5	4	3	2	1・0
頭部伸展	腹	腹	腹	背	背					
頭部屈曲	背	背	背	背	背					
頸部伸展	腹	腹	腹	背	背	座	座	座	側	側
頸部屈曲	背	背	背	背	背	背	背	背	側	側
頸部回旋	背	背	背	座	座	座	座	座	座	座
体幹伸展	腹	腹	腹	腹	腹	座	座	座	座	座
骨盤挙上	背/腹	背/腹	背/腹	背/腹	背/腹					
体幹屈曲	背	背	背	背	背	背	背	背	背	背
体幹回旋	背	背	背	背	背	座	座	座	座	座
肩甲骨外転と上方回旋：肩甲帯屈曲	座	座	座	座	座	背	背	背	側	側
肩甲骨挙上：肩甲帯挙上(引き上げ)	座	座	座	腹	腹	座	座	座	側	側
肩甲骨内転：肩甲帯伸展	腹	腹	腹	腹	腹	側	側	側	側	側
肩甲骨下制と内転	腹	腹	腹	腹	腹					
肩甲骨内転と下方回旋	腹	腹	腹	座	座					
肩甲帯下制(引き下げ)						側	側	側	側	側
肩屈曲	座	座	座	側	側	座	座	座	側	側
肩伸展	腹	腹	腹	腹	腹	座	座	座	側	側
肩外転	座	座	座	背	背	座	座	座	背	背
肩肩甲骨面挙上						座	座	座	座	座
肩水平外転	腹	腹	腹	座	座	側	側	側	座	座
肩水平内転	背	背	背	座/背	座/背	背	背	背	座	座
肩外旋	座	座	座	座/腹	座/腹	側	側	側	座	座
肩内旋	座	座	座	座/腹	座/腹	側	側	側	座	座
肘関節屈曲	座	座	座	座	座	座	座	座	側	側
肘関節伸展	腹	腹	腹	座	座	背	背	背	座	座
前腕回外	座	座	座	座	座	座	座	座	座	座
前腕回内	座	座	座	座	座	座	座	座	座	座
手関節屈曲	座	座	座	座	座	座	座	座	座	座
手関節伸展	座	座	座	座	座	座	座	座	座	座
股関節屈曲	座	座	座	側	背	座	座	座	側	側
股関節屈曲・外転・外旋と膝屈曲	座	座	座	背	背					
股関節伸展	腹	腹	腹	側	腹	背	背	背	側	側
股関節外転	側	側	側	背	背	側	側	側	背	背
屈曲位からの股関節外転	側	側	側	座	座					
股関節内転	側	側	側	背	背	側	側	側	背	背
股関節外旋	座	座	座	座/背	座/背	側	側	側	背	背
股関節内旋	座	座	座	座/背	座/背	側	側	側	背	背
膝関節屈曲	腹	腹	腹	側	腹	背	背	背	側	側
膝関節伸展	座	座	座	側	背	座	座	座	側	側
足関節底屈	立	立	立	腹	腹	立	立	立	立	立
足関節の背屈と足の内がえし：背屈	背	背	背	背	背	座/背	座/背	座/背	側	側
足の内がえし：回外	座	座	座	座	座	特定の体位を指定しない				
足の底屈を伴う足の外がえし：回内	座	座	座	座	座	特定の体位を指定しない				

- ・赤字：学会連合版MMTとDaniels法(10版)と同じ体位で段階5～0の検査を実施できる項目
- ・緑字：学会連合版MMTとDaniels法(10版)と同じ体位で段階5～2の検査を実施できる項目
- ・青字：学会連合版MMTとDaniels法(10版)と同じ体位で段階5～3の検査を実施できる項目
- ・運動の呼称が異なる場合、学会連合版MMTでの呼称を：の後に示した